



全国学力・学習状況調査等 国語の問題から

校長 田中 俊光

例年4月には、3年生は全国学力・学習状況調査、1・2年生は確認問題を実施します。そして10月には、1・2年生は学力定着状況確認問題を実施します。今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休校の為、中止になりました。私は、生徒と同じようにこの調査の全ての教科の問題を解いて自己採点するようにしています。専門の数学以外は、最初苦戦しましたが、この頃は慣れてきてほしい解けるようになりました。

今回の校長だよりでは、過去の国語の問題で使われた興味深い文章を2つ紹介します。

〈平成30年度 全国学力・学習状況調査 中学校第3学年国語Bから〉

「宅配便で届いた段ボール箱は、天地無用だから、逆さまにしても大丈夫だ」

この言い方が気にならないあなた、受け取った荷物は大丈夫でしょうか？

「天地無用」という言葉の意味について「国語に関する世論調査」で尋ねたところ、約3割の人が「上下を気にしなくてよい」という意味だと回答しました。

では、「天地無用」とは本来どのような意味か、辞書で調べてみましょう。

『^{こうじえん}広辞苑 第6版』(平成20年・岩波書店)

てんちーむよう【天地無用】運送する荷物の外装などに記す語で、この荷物を取り扱うのに、上下を逆にしてはいけないという意。

『日本国語大辞典 第2版』(平成12～14年・小学館)

てんちーむよう【天地無用】荷物、貨物などの包装の外側に記す語で、破損の恐れがあるため上下をさかさまにして取り扱ってはいけないという意味の注意。

「天地無用」は、「**荷物の上下を逆にしてはいけない**」という意味です。段ボール箱の荷物などに、赤地に白抜きで「天地無用」と書かれたシールが貼られていることがあります。しかし、それだけでは意味が分からない人が少なからずいるからでしょうか、最近では、記号やイラストを用いて視覚に訴えたり、「UP」、「この面を上」などといった情報を書き足したりして、より分かりやすく示そうとする例が多くなっています。

平成25年度の「国語に関する世論調査」で、「天地無用の荷物」という例文を挙げて、その意味を尋ねました。結果は次のとおりです。

— 途中略 —

では、「天地無用」を「上下を気にしないでよい」という意味で受け取る人が多いのには、どのような理由があるのでしょうか。その前提として、「無用」の意味を調べてみましょう。

『岩波国語辞典 第7版』(平成22年・岩波書店)

むよう【無用】 ①役に立たないこと。いらぬこと。「心配御一」^{ちゆうい がき} ②してはならないこと。「立入り一」「天地一」(上下を逆にしてはならないという注意書) ③用事が無いこと。「一の者、入るべからず」

②の例にあるように「天地無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。

かつて、アニメ番組「ドラえもん」の主題歌の中に「落書き無用」という言葉がありました。これは「落書きをしてはならない」という意味で、「天地無用」も同じ使い方です。

このように「無用」の用法は、かつては注意書きなどによく見られました。しかし、現在は「落書き禁止」^{たちいりきんし}など、「禁止」という言葉を用いたり、もっと丁寧に「…しないでください」、「…は御遠慮ください」などと書かれたりするようになっていきます。そのために、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方があること自体、分かりにくくなっているのかもしれない。

また、「無用」の意味が「してはならないこと」であると分かっていたとしても、「天地しては

ならない」では、意味が通じません。「天地無用」は、「天地を逆さかにすること無用」のように、下線部に当たる内容が省略された言い方になっているのです。字面だけを見ても、そのことは分かりませんから、本来の意味で読み取るのは難しいでしょう。

「落書き」や「立ち入り」とは違って、「天地」という言葉自体には「してはならない」というような内容がありません。「逆にする」という省略部分に気づかなければ、「無用」の意味は「役に立たないこと。いらぬこと」や「用事が無いこと」に取られかねないのです。その結果、「天地はいらぬ＝上下は気にしなくていい」、「天地に用事はない＝天地は関係ない」などと解釈されることになりやすいと考えられます。

「天地無用」という言葉は、いつも荷物を取り扱っている人や、意味を知っている人にはごく当たり前のものかもしれませんが、初めて目にした場合には解釈が難しい表現です。「国語に関する世論調査」でも、反対の意味だと考えている人と意味が分からないという人を合わせると4割近いという結果でした。

トラブルを避けるため、今後は分かりやすく言い換えたり、表示を工夫したりするなどの配慮が必要かもしれません。(文化庁国語科『文化庁国語科の勘違いしやすい日本語』による)

〈平成30年度 学力定着状況確認問題 中学校第2学年国語から〉

今、私が完全に外界から隔離された部屋で生活するでしょう。この部屋には窓がなく、日の出日の入り、昼夜の区別がつかず、また時計もない。この中で、どのようにして私は時間の感覚を得ることができるのだろうか。それはひとえに自分の「体内時計たいしや」に頼るしかない。だいたいこれくらいで一日二十四時間。七回眠ったからおおよそ一週間が経ただろう。もうそろそろ一ヶ月経過した頃かな。そして……とうとう一年。もちろん、このような生活が、たとえ衣食が足りたとしても、まともに続けられるとは思えないが、これはあくまで**思考実験**である。

私が三歳のとき、この実験を行って自分の「時間感覚」で「一年」が経過したでしょう。そして私が三十歳のとき、もう一度この実験を行って「一年」を過ごしたとする。いずれも自分の体内時計が一年を感じた時点が「一年」ということである。それぞれの実験では、実際の物理的な経過時間を外界で計測しておくとする。

さて、ここが大事なポイントである。三歳のときに行った実験の「一年」と三十歳のときに行った実験の「一年」では、どちらが実際の時間としては長いものになっただろうか。意外に思われるかもしれないが、ほぼ間違いなく、三十歳のときに感じる「一年」のほうが長いはずなのだ。なぜか。

それは私たちの「体内時計」の仕組みかたちに起因する。生物の体内時計の正確な分子メカニズムいまは未だ完全には解明されていない。しかし、細胞分裂さいぼうぶんれつのタイミングや分化プログラムなどの時間経過は、すべてタンパク質の分解と合成のサイクルによってコントロールされていることがわかっている。つまり**タンパク質の新陳代謝速度が、体内時計の秒針**なのである。そして、もう一つの**厳然たる**事実は、私たちの**新陳代謝速度が歳をとるにつれて確実に遅くなる**ということである。つまり体内時計は徐々にゆっくりと回ることになる。しかし、私たちはずっと同じように生き続けている。そして私たちの内発的な感覚は極めて主観的なものであるために、自己の体内時計の運針うんしんが徐々に遅おそくなっていることに気がつかない。

だから、完全に外界から遮断されて自己の体内時計だけに頼って「一年」を計ったとすれば、三歳の時計よりも、三十歳の時計のほうがゆっくりとしか回らず、その結果「もうそろそろ一年が経ったなあ」と思えるに足るほど時計が回転するのには、より長い物理的時間がかかることになる。つまり三十歳の体内時計がカウントする一年のほうが長いことになる。

さて、ここから先がさらに重要なポイントである。タンパク質の代謝回転が遅くなり、その結果、一年の感じ方は徐々に長くなっていく。にもかかわらず、実際の物理的時間はいつでも同じスピードで過ぎていく。だから？だからこそ、自分ではまだ一年なんて経っているとは全然思えない、自分としては半年くらいが経過したかながくぜん—と思った、そのときには、すでにもう実際の一年が過ぎ去ってしまっているのだ。そして私たちは愕然がくぜんとすることになる。

つまり、**歳をとると一年が早く過ぎるのは「分母が大きくなるから」ではない。実際の時間の経過に、自分の生命の回転速度がついていけない、そういうことなのである。**

(福田伸一「新版 動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか」による)